

家畜飼養学特論実験 (2単位)

担当者氏名 祐森誠司・谷口信和・池田周平

◆学習・教育目標

家畜飼養学特論において講義したなかでも、試験に供試する動物（家畜）の飼養条件（栄養状態）は動物実験指針の内容に該当する項目であり、適正な状況であるか、否かを常に確認する必要がある。これは市販飼料を給与していても、給与量の妥当性、給与時期（成長ステージ）の妥当性、等と関連している。また、我が国の家畜の飼養管理・飼料構造の実態と問題点について論議し、経営経済的側面から理解を深める事も狙いとする。本実験では修士、博士の論文作成や学会報告における供試動物用飼料の試験調製とその成分分析および管理データの解析手法等にういてパソコンを用いて体験するなどを実践するが、時間制約があるので集中的な形式で行う事がある。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

飼料成分 _____ 栄養素 _____ 栄養素要求量 _____ 維持・成長 _____
 飼育管理 _____ 飼料構造 _____ パソコン解析 _____

◆授業の進行等について

| | テーマ | 内容 | 授業のねらいまたは準備しておく事項 |
|-----------|-----------------|--------------------------------------|------------------------------|
| 第 1～5 週 | 飼料の配合設計 (一) | 個々の試験対象となる動物の飼料 | 試験飼育する動物に給与する飼料の組成と栄養供給量について |
| 第 6～10 週 | 飼料の配合設計 (二) | 飼料原料の識別と実践的な配合 | 単実飼料の確認と飼料配合及び粒度調整 |
| 第 11～25 週 | 自家配合飼料の成分分析 | 粗蛋白質、粗脂肪、熱量等一般成分と特殊成分の分析 | 自ら配合した飼料組成における栄養成分の確認 |
| 第 26～27 週 | 問題（課題の確認）と処理の手法 | 課題に応じた処理法の選択（統計的手法）と実践 | 問題提起と適切な処理の理解 |
| 第 28～30 週 | 解析結果の取りまとめと表現 | 統計的手法で処理した結果の整理とプレゼンテーションに資する形式への具現化 | 成績の整理法の理解 |

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）
 適宜、資料は配付する

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）
 ぜひ知っておきたい日本の畜産／平野 進編著／幸書房（2008）

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウエイト）

随時、レポートの提出を求め、評価する

◆その他受講上の注意事項

時間割配当はあるが、作業上の都合で学生と相談したうえで、集中的に実施する場合がある。

